# 雷平（いかづちたい）の神社仏閣（Ⅳ）

多賀台　星　一郎

## （1）はじめに

前号の「善光寺薬師・雷代光明稲荷」に続き、風穴房蔵（1862～1949年、88歳没）建造で、以前は馬頭観音と言われていた「駒峯神社」について記す。房蔵は、市川はもとより、五戸・下長の馬主や、百石の公認獣医にも劣らぬ人気があり、「風穴獣医」と呼ばれていた。

## （2）駒峯神社の由来

ある時、飼育していた農耕馬が「**伝貧**（でんぴん）」（馬伝染性貧血の略＝ウィルスにより40度もの高熱になり、衰弱すれば安楽死させる）に罹（かか）った。房蔵は獣医学のことについては詳しく、薬草等を煮込んだ真っ黒な煮汁を馬に飲ませた。そのことで立ち上がることもあったが、懸命な治療の甲斐（かい）もなく死んだ。埋葬時、子馬は母馬の腹の上を跳びまわり、みんなの涙を誘った。その子馬も注射により安楽死・埋葬された。

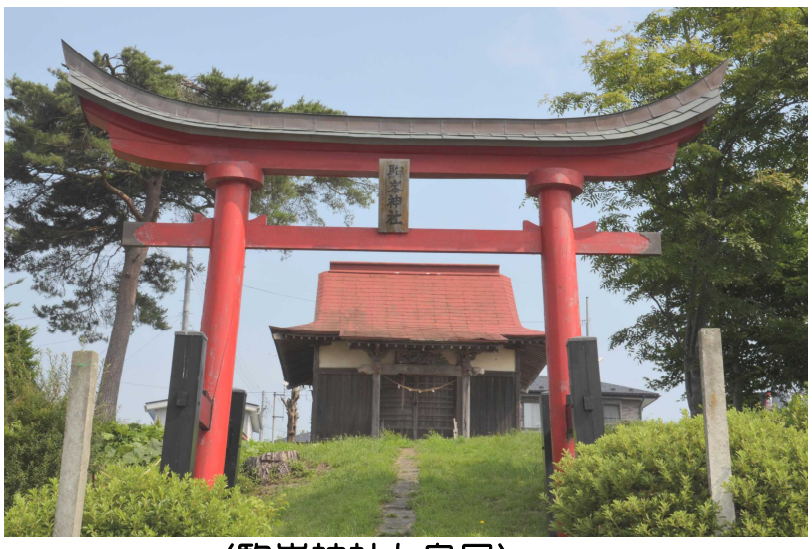
その場に石碑が建てられていたが、後に「奥の院」および「拝殿」が建造され、それが駒峯神社になった。この際、当山にあった三祠（ほこら）のうち、「山ノ神」は合祀されたが、「雷代光明稲荷」は合祀できず境内に別棟として建築し、また、「善光寺薬師」は湧水神池側に改築された。

神額（しんがく）にある「駒峯神社・昭和13年閏年7月15日」は例祭の日でもあり、昔は露店も出るほどの賑わいがあったとのことである。

## （3）駒峯神社の鳥居

神額に「平成4年9月・風穴州一建立」とある。房蔵の遺言により、曾孫（ひこまご）の州一（故人・平成10年12月20日・73歳没）が建立したものである。

鳥居は、鉄柱芯に加工材を張り合わせる方法もあったが、主柱は大木から角材に粗引（あらびき）後、丸柱に仕上げた一本物で、高価なものである。　（以上）



〈駒峯神社と鳥居〉

〈駒峯神社の神額〉

お話　風穴サダさん、風穴武志さん　　写真　木村隆一